

〈短報〉

佐賀市の都市公園に植栽されたコナラ属 (ブナ科) に
おけるハバチ類2種の大発生と九州における
ナラハバチ (新称) *Fagineura quercivora*
(ハチ目: ハバチ科) の初確認

尋木 優平¹・藤田 将平¹・原 秀穂²・
安達 修平³・口木 文孝⁴・徳田 誠^{1,3,*}

¹ 佐賀大学農学部

〒840-8502 佐賀市本庄町1

² 北海道立総合研究機構林業試験場

〒079-0198 美唄市光珠内町東山

³ 鹿児島大学大学院・連合農学研究科

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24

⁴ 佐賀県果樹試験場

〒845-0014 小城市小城町晴気91

Outbreaks of two sawfly species on planted *Quercus* trees
at an urban park in Saga City, Kyushu and the first record of
Fagineura quercivora (Hymenoptera: Tenthredinidae) from Kyushu

Yuhei TAZUNOKI¹, Shohei FUJITA¹, Hideho HARA²,
Shuhei ADACHI³, Fumitaka KUCHIKI⁴ and Makoto TOKUDA^{1,3,*}

¹ Faculty of Agriculture, Saga University,
Saga, 840-8502 Japan

² Forestry Research Institute, Hokkaido Research Organization,
Bibai, Hokkaido, 079-0198 Japan

³ The United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University,
Kagoshima, 890-8580 Japan

⁴ Saga Prefectural Fruit Tree Experiment Station,
Ogi, 845-0014 Japan

*E-mail: tokudam@cc.saga-u.ac.jp

Jpn. J. Ent. (N.S.), 21(2): 142–144, 2018

Abstract. Outbreaks of two sawfly species were often observed at an urban park in Saga City, Kyushu since 2009. Their larvae severely defoliated *Quercus dentata* and *Q. acutissima* trees planted in the park from middle April to early May. One is *Fagineura quercivora*, which had been known only from the type locality, Ishikawa Prefecture, Honshu. This is the first record of *F. quercivora* from Kyushu, and *Q. dentata* and *Q. acutissima* are new host records for the sawfly. Its outbreak was observed in 2016 and 2017. This is the first report of the sawfly as a pest. The larvae of *F. quercivora* were also found in a secondary forest in Taku City, Saga Prefecture. Although the other sawfly was observed in 2009, 2010 and 2016 and defoliated only *Q. acutissima*, it has not been identified up to the present.

Key words: *Fagineura quercivora*, new distribution record, new host record, outbreak, sawfly.

ハバチ類はしばしば大発生して樹木に多大な被害をもたらすことが知られている（小林・竹谷 1994; 原 2010; 谷脇ら 2013; 古屋ら 2014）. 近年、佐賀市のどんだんどの森公園において、植栽されたカシワ *Quercus dentata* やクヌギ *Q. acutissima*（ブナ科）上でハバチ幼虫の大発生が確認されたのでここに報告する.

2009年の4月下旬頃、茂木幹義博士（元・佐賀大学）がクヌギ上で体色が薄青緑色で側面に黒い斑点の付いたハバチ幼虫（以下、ハバチ sp. A とする）の多発生を確認し、著者の一人、口木を介して専門家に同定を依頼したが、幼虫標本のみしか得られておらず、種の同定は困難とのことであった. また、2010年5月2日にも口木がクヌギ上でハバチ sp. A の多発生を確認したが、この時にも幼虫しか得られず、種の同定は行われなかった.

その後の数年間の発生状況は不明であるが、2016年4月中旬から下旬にかけて、同公園においてクヌギ上でハバチ sp. A（図1）、そしてカシワ上で体色が黄色で黒い筋の入ったハバチ幼虫（以下、ハバチ sp. B）が多数発生した. とりわけハバチ sp. B の発生密度は高く、公園西側の道路沿いに植栽されたカシワ4株のうち、北側に少し離れた場所にある1株を除く3株では4月下旬までにおびただしい数の幼虫が出現し（図2）、その食害により葉がほぼすべて消失した（図3）. そして、翌2017年4月20日には、カシワおよびクヌギ上で多数のハバチ成虫が確認され（図4）、両樹種において展開直後の葉の主脈や基部に産卵する様子が観察された. その後間もなく、両樹種上で、ハバチ sp. B の幼虫が多数出現した. そして、公園内の



図1-4. 佐賀市のどんだんどの森公園で確認されたハバチ類と被害.

1) クヌギで確認されたハバチ sp. A の幼虫（2016年4月23日、口木撮影）； 2) カシワ上で確認されたナラハバチ *Fagineura quercivora* の幼虫（2016年4月23日、口木撮影）； 3) ナラハバチ幼虫の摂食により葉が消失したカシワ（2016年4月30日、徳田撮影）； 4) カシワ枝上で確認されたナラハバチの成虫（2017年4月9日、藤田撮影）.

カシワ4株すべてが食害され、うち3株では葉がすべて消失した。

2017年に採取されたハバチ sp. B の成虫 (2♀2♂, 佐賀市どんどんの森, 2017年4月20日, 藤田将平・尋木優平採集, 国立科学博物館に保管予定) を著者の一人である原が検査した結果, 本種はナラハバチ (新称) *Fagineura quercivora* であることが明らかになった。本種はTogashi (2006) により記載され, これまで本州石川県“Tsurugi-machi” (現白山市) 産のホロタイプおよびパラタイプ標本のみが知られており, 室内飼育下で雌成虫のブナ科のコナラ *Q. serrata* とミズナラ *Q. crispula* への産卵及び孵化幼虫の摂食が確認されていた。

今回の報告が本種の九州からの初記録, カシワとクヌギは新食樹かつ野外での初めての食樹記録であり, また, 害虫として報告されるのも今回が初めてである。なお, 佐賀県内においては, 2017年5月12日に多久市の相浦の自然植生 (二次林) においてもクヌギ上でナラハバチの幼虫が確認された。

近年, 本種と同属のブナハバチ *F. crenativora* の大発生が全国各地で報告されている (e.g. 谷脇ら 2012; 福沢ら 2014)。ナラハバチとブナハバチの大発生の要因に関連性が見られるか否か, および, ナラハバチの大発生が生態系にどのような影響を及ぼしているかに関しては, 今後の重要な研究課題である。

ハバチ sp. A に関しては, 春に成虫が得られないことやクヌギを摂食することから, 成虫が秋に発生しブナ科樹木を食樹とするハバチ科ハグロハバチ亜科の *Apethymus* 属の可能性が高いと考えられるが, 同定のためには今後成虫標本を確保する必要がある。

謝 辞

本研究に際し, ハバチ類に関する有益な情報をご提供くださった篠原明彦博士 (国立科学博物館) およびどんどんの森公園における大発生の情報をご教示くださった茂木幹義博士 (元・佐賀大学) に感謝申し上げます。

引用文献

- 福沢朋子・山路貴大・谷脇 徹・逢沢峰昭・大久保達弘 (2014) 栃木県高原山尚仁沢のイヌブナ・ブナ天然林における4年間のブナハバチ被害の発生状況. 宇都宮大学演習林報告, **50**: 79–83.
- 古屋 諒・斉藤雄太・中村寛志・江田慧子・原 秀穂 (2014) 中部山岳域におけるハイマツを食害するタカネシママツハバチ *Gilpinia albiclavata* の分布変遷. 信州大学農学部AFC報告, **12**: 63–73.
- 原 秀穂 (2010) 北海道における膜翅目ハバチ亜目の樹木害虫I: ナギナタハバチ科, ヒラタハバチ科, ミフシハバチ科, コンボウハバチ科. 北海道林業試験場研究報告, **47**: 52–68.
- 小林富士雄・竹谷昭彦 編 (1994) 森林昆虫—総論・各論. 養賢堂, 東京.
- 谷脇 徹・山根正伸・田村 淳・相原敬次・越地 正 (2012) 丹沢山地において大量発生したブナハバチ対策への取り組み. 神奈川県自然環境保全センター報告, **9**: 81–89.
- 谷脇 徹・山根正伸・田村 淳・相原敬次・越地 正・谷 晋・伴野英雄・山上 明 (2013) ブナハバチ雌成虫の発生とブナ展葉の同時性が被食量に及ぼす影響. 昆虫 (ニューシリーズ), **16**: 218–224.
- Togashi I (2006) A new sawfly, *Fagineura quercivora* (Hymenoptera: Tenthredinidae) feeding on *Quercus serrata* and *Q. mongolica crispula* in Honshu, Japan. *Proceedings of the Entomological Society of Washington*, **108**: 169–173.

(2017年9月5日受領, 2017年12月16日受理)

(Received September 5, 2017; Accepted December 16, 2017)